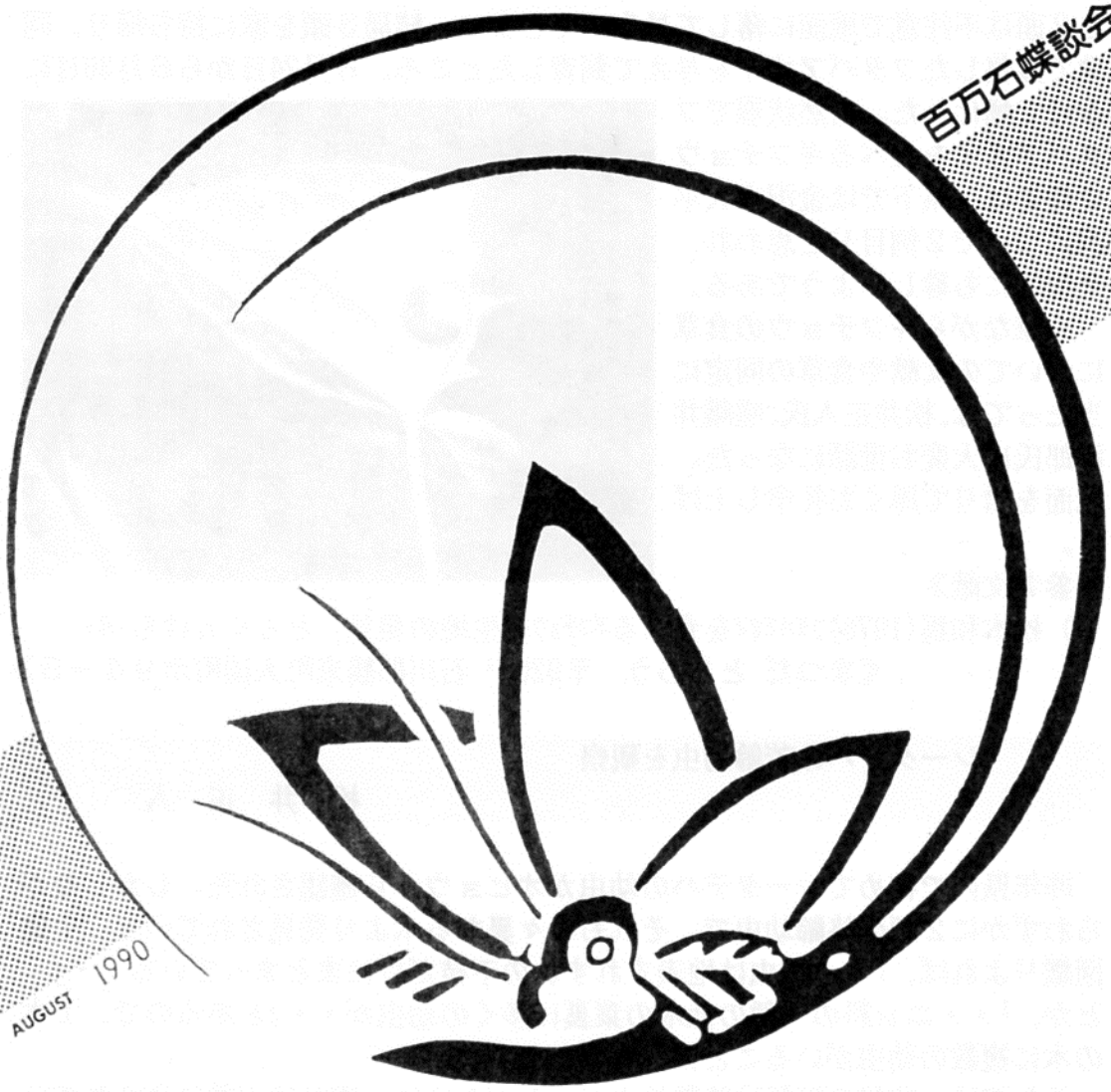
翔

百万石蝶談会



NO. 85 AUGUST 1990

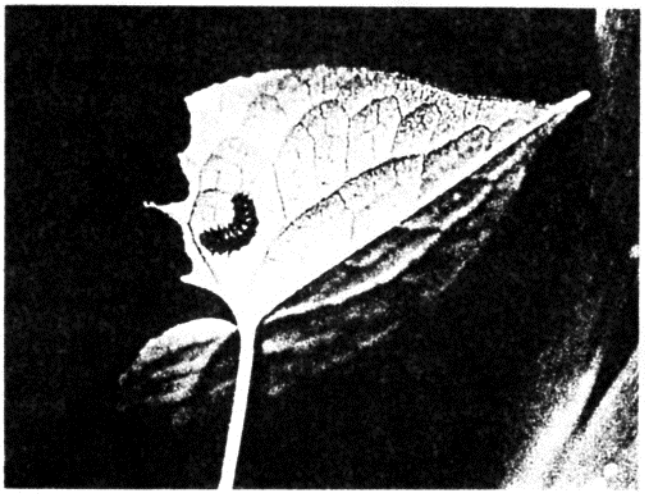
替リ光琳松葉丸ニトビ蝶

フタバアオイを食べるギフチョウ

松 田 俊 郎

1990年６月10日石川郡吉野谷村下吉野の林道わきで、フタバアオイを摂食しているギフチョウの幼虫を見つけたので、写真を添えて報告する。

幼虫はフタバアオイの葉裏に５頭(１葉に１頭づつ)を見い出したが、このうち２頭は不注意で地面に落して見失ってしまい、結局３頭を家に持ち帰り、同地で採集したフタバアオイを与えて飼育したところ、６月24日から６月30日にかけて蛹化した。自然状態でフタバアオイを食べるギフチョウの報告は、県下では金沢市大平沢についで２例目[1]と思われ、全国的にも珍しいようである。



末筆ながらギフチョウの食草についての文献や食草の同定に当たっては、松井正人氏、嵯峨井淳郎氏に大変お世話になった。紙面を借りて厚くお礼申し上げる。

《参考文献》

１）松本和馬(1978)ﾌﾀﾊﾞｱｵｲを食べるｷﾞﾌﾁｮｳ発生地の発見　とっくりばち(41)

《まつだ としろう　〒920-21 石川郡鶴来町大国町ホ９４－５》

シータテハの若齢幼虫を観察

松 井 正 人

昨年県内で初めてシータテハの幼虫がオヒョウから確認された。しかしながらわずかに２頭の終齢幼虫で、それも各々異なる木より発見されている。生態図鑑[1]よれば、「・・幼虫は地表すれすれの下枝だけにまとまっている・・」とか、「・・ニレ科の一種の低木の葉裏に多くの幼虫が・・」とあるので、１本の木に複数の幼虫がいることがうかがわれる。

それでは、昨年の記録は終齢幼虫だったがために、残りは天敵にやられていたのではないかと思えてくる。そこで、今年は時期を早め、若齢幼虫を捜すことにした。

調査１　１９９０年５月２６日　白峰村白山釈迦林道（標高１０００ｍ）

ここは昨年終齢幼虫を確認した所だけに、たくさんの若齢幼虫が観察できると期待していた。当日は、上田　昇氏の協力を得、昨年観察した木はもちろん、中低木のオヒョウを数多く調査したが、幼虫は発見できなかった。

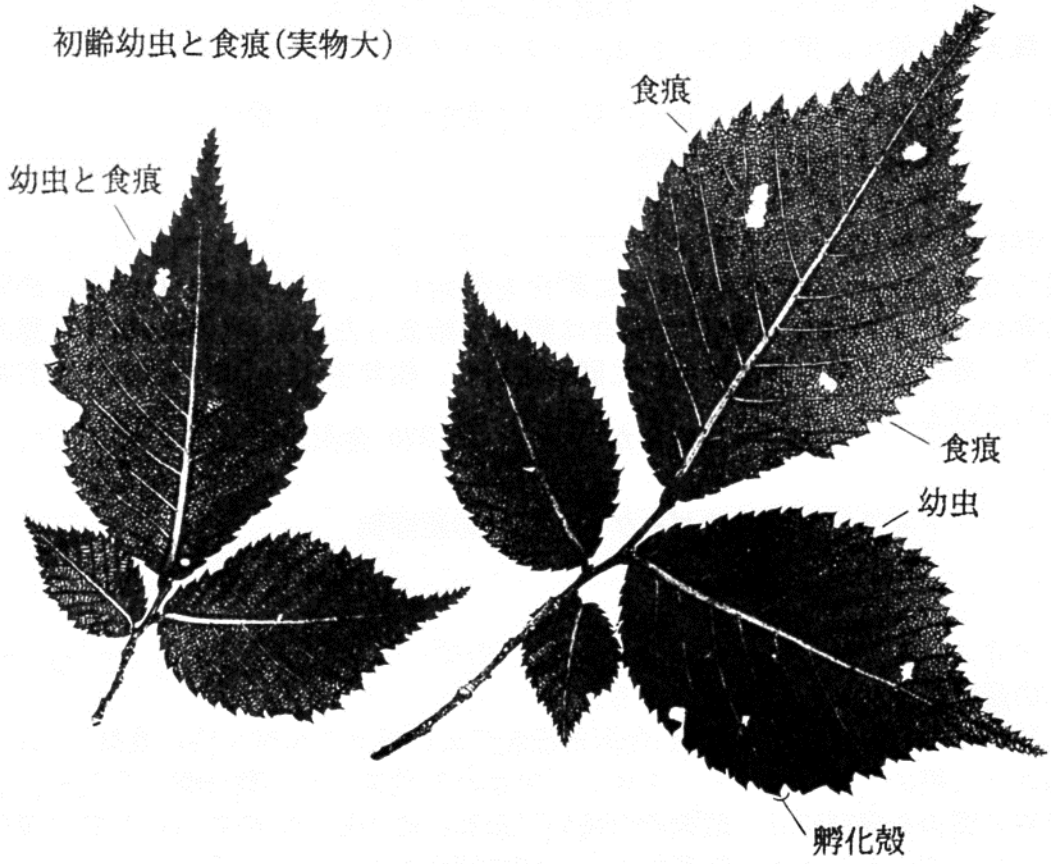
調査２　１９９０年５月２７日　吉野谷村中宮温泉付近（標高６００ｍ）

中宮温泉付近はオヒョウが多いので、その中から発見の可能性が高く調査も容易な木をピックアップして調べることにした。最初は渓谷の河原にあって枝を四方へ伸ばす、最も期待が持てる木を調査した。枝張りの中に入り見上げると、２ｍ程の高さの葉裏に２齢幼虫が見え、手元の葉を裏返えすと、そこにも幼虫が付いていた。また、この木をぐるりと回って最も低い枝（１ｍ程）から２ｍ位にかけて葉裏から13頭の２齢幼虫を観察した。満足感を覚えながら次の木に移ると幼虫は全く発見できず、この後約４時間で10本程を調べたが、全く観察できなかった。最後になってオヒョウの木が多い林の縁を調査したところ、大きな木のひこばえの地表すれすれの葉裏から、２頭の１齢幼虫を観察した。

今回の調査では、目的どおり１本の木より複数の若齢幼虫を観察することができた。また、地表すれすれから２ｍの低い位置からの発見は、前出の生態図鑑を裏付けるものだった。

最後になりましたが、これらの調査にいつもご同行頂きました上田　昇氏に感謝します。

初齢幼虫と食痕（実物大）



《参考文献》原色日本蝶類生態図鑑Ⅱ（タテハチョウ・テングチョウ科編）

《まつい まさと　〒920-01 金沢市大場町東８７１－１５》

ゼフィルスの野外に於ける孵化期について

野　中　　勝

ゼフィルスの野外に於ける孵化期についての観察を以下の如く行っているので、断片的ではあるが報告しておく。なお、今冬(1989年～1990年)は記録的な暖冬とされていることを、おことわりしておく。

1）１９９０年３月２５日　金沢市犀川ダム(標高３００ｍ)

ウラゴマダラシジミ	初齢幼虫数頭	イボタ
オナガシジミ	２卵	オニグルミ
ウラクロシジミ	１卵	マンサク

ウラゴマダラは６卵からなる既脱出殻を発見し、その枝を持ち帰って数頭の初齢幼虫を確認した。ウラゴマダラがオナガ、ウラクロより先に孵化するのは、野外でも冷蔵庫でも同じ様である。

2）１９９０年４月１日　鶴来町白山町(標高１５０ｍ)

ウラゴマダラシジミ　２齢幼虫２３頭　イボタ

曇天の午前中に捜したが、幼虫はほとんどが葉上で摂食中であった。

3）１９９０年４月８日　金沢市医王山(通称シガラ首)(標高７００ｍ)

ウラクロシジミ	２４卵	マンサク
ウラキンシジミ	１０卵	マルバアオダモ

共に約半数は精孔部に穴を開けており、持ち帰ったところ、ウラクロはその日のうちに、ウラキンは数日後に孵化を開始した。なお、当日はアラレの降る寒い日で、野外に放置した場合は孵化が始まった可能性は無いものと思われる。最後に４月１日の採集行に同行された、松井正人、上田　昇両氏にお礼申し上げる。

《のなか まさる　〒920 金沢市涌波町２－７－２０》

アオスジアゲハのゲッケイジュへの産卵例

野　中　　勝

アオスジアゲハ(Graphium sarpedon)のゲッケイジュ(Laurus nobilis)への産卵を観察したので報告する。

1989年９月８日午前９時頃、金沢市涌波の公務員宿舎の敷地内に食栽された、高さ３ｍ程のゲッケイジュにアオスジアゲハが飛来した。数分間にわたり、この樹の周辺を飛び回り、数箇所の枝先で産卵行動の様なものを行った後に飛び去った。調べたところ、新葉部から一卵確認された。

《のなか まさる　〒920 金沢市涌波町２－７－２０》

富山県福光町ナガトロ峡の蝶について

澤田　博

1990年７月１日、大門山へカミキリ類の採集に向うが、途中から小雨が降ったり、やんだりの天候である。

途中、刀利ダムからブナオ峠への道が土砂崩れで通行止めになっており、あきらめて道沿いのクリの花をすくってみることにする。そこは、ちょうどナガトロ峡と呼ばれる景勝地で、谷の向う側のガレた絶壁を山野草でも採っているのか登っている人がおり、それを落ちはせぬかと、こちら側で車を停めて見ている人がいる。

クリの花にはゼフィルスを中心として数多くの蝶が来ており、ウラクロシジミが多い。その内、変な蝶がネットに入る。ムラサキシジミである。それから２時間がんばったが、追加できなかった。

目撃したものを含め採集したものを記録に留めておきたい。

１．ムラサキシジミ　Narathura japonica　１♀採集
　石川県もそうだが、富山県の記録も少ない[1)]。
　この近くでは、勝海雅夫氏が1983年に医王山で採集しており[2)]、それ以来の記録と思われる。

２．メスアカミドリシジミ　Chrysozephyrus smaragdinus　１♀採集

３．ジョウザンミドリシジミ　Favonius cognatus　２♂１♀採集

４．ウスイロオナガシジミ　Antigius butleri　１♀採集

５．ミズイロオナガシジミ　Antigius attilia　１♀採集

６．ウラクロシジミ　Iratsume orsedice　２♀採集

７．アカシジミ　Japonica lutea　目撃
　ゼフィルス類は採集したもの以外に、多数目撃している。

８．キバネセセリ　Bibasis aquilina chrysaeglia　１♂採集
　この種も、記録の少ない種で、付近では上平村の西赤尾で1982年に記録がある[1)]。

９．ヒメキマダラセセリ　Ochlodes ochracea　１♂採集
　昨年、同時期に野中勝氏の記録があり[3)]、ここでは少なくないのかも知れない。

《参考文献》

１)富山県昆虫研究会編(1988):富山県の昆虫類
２)勝海雅夫(1983):医王山にてムラサキシジミを採集　翔(51)
３)野中　勝(1989):富山県福光町ナガトロ峡で７月２日に観察した蝶類 翔(81)

《さわだ ひろし　〒920 金沢市石引１－１６－１１》

Pieris属(スジグロシロ、エゾスジグロシロ)の発香鱗のおはなし

指田春喜

スジグロシロチョウ(Pieris melete Menetries) とエゾスジグロシロチョウ(Pieris napi japonica Shirozu)の２種をきっちりと識別するには、かなりの熟練を必要とする。この両者は外観が酷似しており、その同定は仲なか難しいものである。

日本産蝶類の図鑑の筆者らでさえも「時々どちらにしてよいか迷うような個体がある」とか、「melete だとばかり思っていた♀親のF_1が全て napi であった」とか言っているのを昔聞いたことがある。

スジグロもエゾスジグロも、ともに日本産の蝶類の中でも最普通種に属する蝶であり、なおかつ大型の美麗種というのでもなく、地味な蝶であるために一般の虫屋の関心は極めて薄い。そして、国内でのこの２種の分布は重なる地域が多いことから、この両種を意識して採集したことはないが、たぶん自分の標本の中に両方が混ざっているであろうという思いが、スジグロとエゾスジグロをきっちりと同定しないでいつまでもほっておく大きな原因と思われる。さらに、これまでの図鑑にあるような斑紋・色彩・翅形による区別では、どちらともつかないような個体が必ずあり、白黒をはっきりつけないと気が済まない几帳面な人ほど、逆にこの作業をはじめるのを億劫がるものである。会員の方々の多くのところでも、この２種であることは間違いないものの、どちらであるかはっきり区別されないまま標本箱にゴチャゴチャに収まっていることがおおいのではないか。(実際、M氏がそうであった由聞こえてきた。ウッシシ！)

そこで本稿では、このスジグロとエゾスジグロの両種を区別する方法として、発香鱗による方法を紹介したい。もちろん、本法は筆者のオリジナルであるはずもなく、既に多くの図鑑等に記載されているものである。しかしながら、一般の多くの虫屋にはあまり馴染みがないようであり、ご存じない会員もあるかと思い、簡単に論じてみたい。

本題に入る前に『発香鱗とは何ぞや？』ということであるが、一言でいえば、モンシロチョウやスジグロシロチョウなどの Pieris 属を採集した折、微かに匂うあの独特の臭気、あれを出す鱗粉である。正確にはこの匂いは発香嚢より出されるものであり、この発香嚢(図の中では、斜線でしめしてある)が付いている鱗粉を指し、こいつの形によりスジグロとエゾスジグロを区別しようというのである。

ちなみに、この発香嚢があるのはシロチョウ亜科だけであり、それ以外のシロチョウ科にもあるがその種類は少ない。

方法はいたって簡単であるが、他の外部形態による区別に比べて、その精度は高い。用意するものは、100倍から300倍ぐらいの顕微鏡とスライドグラスがあればそれで良い。当節、顕微鏡は確かに高価なものであるが、もし小学校の

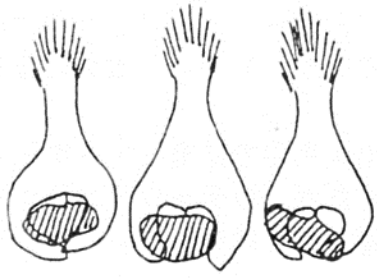
頃にでも買ってもらったものでもあれば、それで充分役に立つ。

♂の翅(発香鱗は♀にはない！)よりマッチ棒か何かでスライドグラスの上にほんの僅かの鱗粉を採取し、検鏡(200倍ぐらいが最適) するだけで良い。この鱗粉を採る翅の部位については、どこが適当であるのかはっきりしないが、筆者はたいした根拠もなく前翅中室の基部より採取した。そして、採取する鱗粉の量は、スライドグラスの上に僅かに白いのが確認できる程度で十分である。通常の鱗粉に混ざって図－１、２のようは発香鱗が見られると思う。通常の鱗粉に対するこの発香鱗の割合については、手元にはっきりした資料は無いが、スジグロとエゾスジグロに限って言えば５～10％程度と思われる。さて、この両者の発香鱗の違いは図を一見すれば明らかなように、

①スジグロ(melete)の発香嚢(斜体部)は大形で、その横幅は発香鱗の最大幅の１/２よりはるかに大きい。これに対して、エゾスジグロ(napi)では発香嚢は小型、横幅は発香嚢の最大幅の１/２より小さく、その形は逆三角形となる。

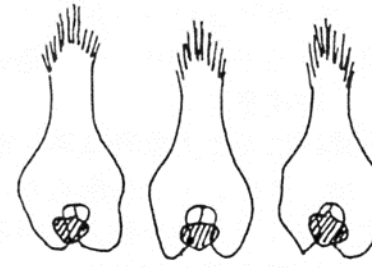
② melete の下端中央湾部のえぐれは大きく、napi では小さい。

以上、発香嚢によるスジグロ、エゾスジグロの両者を区別する方法を記した。従来の翅の外部形態によるものよりその精度は高く、正確な同定の決め手となるので、是非一度試されると良いと思う。だが、最後にもう一度、発香嚢があるのは♂のみである。よって、♀の区別には使えないので、念のため。



Pieris melete Menetries
スジグロシロチョウ

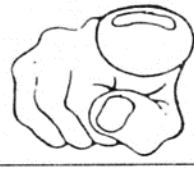
図－１



Pieris napi japonica Shirozu
エゾスジグロシロチョウ

図－２

《さしだ はるき　〒920 金沢市材木町８－３》



標本箱にゴチャゴチャに詰め込んでいるあなた、
今こそキッチリ同定しよう。

財宝捜しレース第1コーナーを回る！

４月からスタートした財宝捜しレースは早くも２ヵ月以上が経過したので、この辺りで出走馬の紹介と、これまでのレース展開を報告しておこう。

まず出走馬を紹介すると、

１枠はゲンコウマサト。某同好会誌の編集長で、人の顔さえ見れば「原稿、原稿」を連発する。ほとんど純粋な蝶屋で、他の虫に対する知識は極めておそまつな為、苦戦が予想される。

２枠はトラズノヒロシ。昔はオサ屋であったが、名前の由来ともなったマイマイ戦の連敗にこりてピドニ屋に転向。数が採り易い点に非常に感激して採りまくっている。蝶も一応は知っているから、このレースはかなり有利。一応対抗というところか。

３枠はヤラズノハルキ。トラズノの兄弟分に当るヤラズノのいわれは、採集した蝶を全て展翅してしまい、人には決してあげないところにある。完全に蝶オンリーでネキダリスとカトカラの区別もつかないだろうから、このレースには出走するだけ無駄な感じ。

４枠はノメッタノボル。ついこの間まで虫の事など何も知らなかったはずだが、みるみる内に蝶、甲虫そして蛾へと次々にのめり込み、現在赤丸急上昇中。大穴。

５枠はウチョウランシゲオ。以前はバリバリのオサ屋であったはずが、現在は120％ ウチョウラン屋。このレースには義理で参加している感じで、問題外と思われるが、オサムシ、蝶の知識はトップクラスなことから、本気になると怖い。要注意。

６枠はニギヤカマサユキ。別名ニギヤカシは出走馬中では唯一の本格的カミキリ屋。このレースの配点からかなり有利なはずだが、ウチョウランシゲオ同様ウチョウラン病を抱えているので、戦力の大幅ダウンは免れない。

７枠はアオダカマサル。広く浅い知識の背景からこのレースの本命と言われているが、奥の深い虫は採れないだろうから、コケることも考えられる。別名アオダカシ、と言っても金沢以外の人には意味不明だろうが。

さて、以上の７頭で始まったレースの展開を以下に解説してゆくが、得点はあくまでも本人の申請に従って決定したことを予めお断りしておきたい。目撃記録を認めるかどうか？　幼虫を採集したが寄生等の理由により成虫にならなかった場合はどうするか？　加賀百万石の領土内で石川県に含まれない部分を認めるか？　成虫の体の一部を採集した場合はどうか？　等多くの点で各人の判断は食い違っているが、この際無視することとし、以下に６月22日現在の集計を報告する。

先ずトップに跳び出たのが、本命のアオダカマサル。ムモンアカ、スギタニルリ、コルリクワ、ホソヒメクロオサ、クロツヤヒゲナガコバネ、セミスジニ

セリンゴ、クリイロシラホシ、ヘリウスハナ、カエデノヘリグロ、キオビトラ、ナカネアメイロ、オオチャイロハナ、ルリヒラタの13点でブッチギリのトップ。４馬身差で追うのはゲンコウマサト。キバネセ、ヘリグロチャバネセ、コキマダラセ、スギタニルリ、シータ、アサギマ、ホソツヤヒゲナガコバネ、フタスジカタビロ、キオビトラの９点。蝶屋がカミキリで点を稼いでいる点を評価したい。３位以下は団子であるが、一応５点で３位に並んでいるのが、フタスジカタビロ、アサギマ、コルリクワ、ゴマフキマダラ、カエデノヘリグロを抑えたトラズノヒロシと、アカマダラコガネ(エライ！)、キバネセ、ヘリグロチャバネセ、コキマダラセ、スギタニルリをものにしたノメッタノボル。５位には、アサマシ、スギタニルリ、アサギマ、クロコムラサキのヤラズノハルキと、ヨコヤマトラ(偶然とはいえエライ！)、クロツヤヒゲナガコバネ、ホソツヤヒゲナガコバネ、ヘリグロチャバネセのニギヤカマサユキが４点で並んでいる。ドンベはアサマシとスギタニルリの２点のみというウチョウランシゲオ。

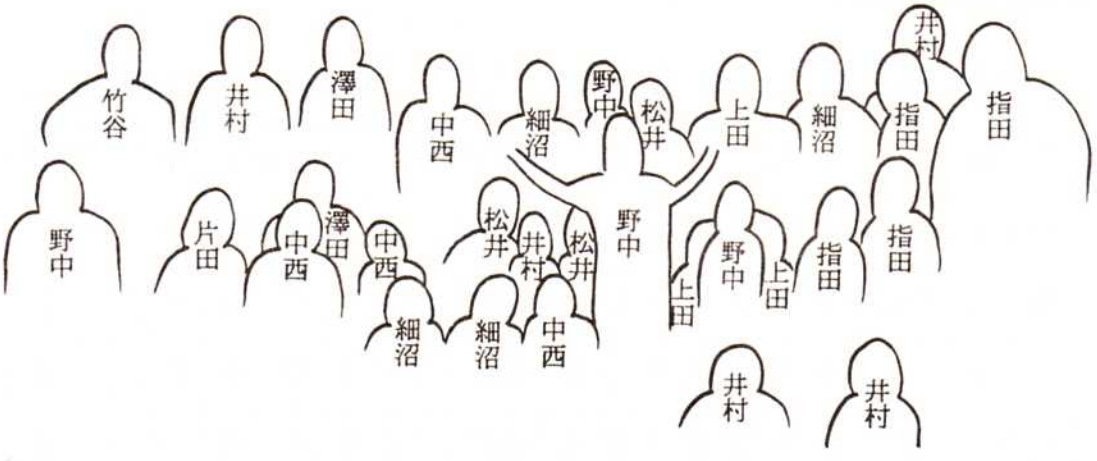
中盤戦を向かえて得点争いは益々熾烈になりつつあり、勝つ為には手段を選ばずといった卑劣な作戦も見受けられる様になった。例えば、とある週末に白山麓のカミキリで加点をと考えていたＡ氏は、土曜の夜から強制的に西会津まで連行されてしまって目的を果たせなかったし、Ｂ氏が夜間採集で得点することを恐れたＣ氏はＢ氏の奥さんと結託して、Ｂ氏を晩酌攻めにして足止めをしている。いずれにしても、このままでは本命がカトカラ等で着々と加点して逃げ切ってしまう可能性が高い。それでは面白くないから、他の馬の奮起による波乱を期待したい。

発走　４月１日

賞品①未定②未定③未定

色	騎		馬名	性年齢	馬主	生産地	得手	得点
白	1		ゲンコウマサト	雄3	ヒロコ	石川	ﾁｮｳ	9
黒	2	対抗	トラズノヒロシ	雄8	サツキ	石川	ｶﾐｷﾘ	5
赤	3		ヤラズノハルキ	雄8	ノブコ	東京	ﾁｮｳ	4
緑	4	大穴	ノメッタノボル	雄12	ミチコ	石川	?	5
黄	5	注意	ウチョウランシゲオ	雄10	アケミ	石川	ﾔｾｲﾗﾝ	2
柚	6		ニギヤカマサユキ	雄6	アツコ	石川	ｶﾐｷﾘ	4
桜	7	本命	アオダカマサル	雄9	マユミ	神奈川	なんでも	13

≪１９９０年テンプラ大会記念写真≫



１９９０年４月２９日の第２回テンプラ大会は雨で順延になり、３０日は大快晴の下に行われた。スーパー林道中宮料金所横の蛇谷河原は朝から大にぎわいで、午前中に集めたウド、タラ、ギボウシ、カタクリ、スミレサイシン等を肴に、昼より酒盛り大パーティー。宴もたけなわに写した記念写真がこれ！

赤いベストのヒゲオヤジは、かたときもビールをはなさない蝶談会きってのドランカーだ。

会員の動き・しゃばの動き

✚5月5日澤田氏、家族そろって東北旅行。帰路、新潟は黒川村の「胎内昆虫の家」へ寄ってきた。

✚5月20日早月川支流小又川はクモツキの大乱舞。人間達の浮世を知ってか知らずか、のんびり飛び回る。

✚5月26日釈迦林道。ハリギリを揺する2人、花をすくう2人、さらには双眼鏡をのぞく2人がいた。

✚5月27日松田氏、白峰は大杉谷でムモンアカの観察。例会報告用のビデオも撮影したので、お楽しみに。

✚5月27日野中、中西、井村のデコボコチームは釈迦林道へ。大杉谷へも行ったらしい。

✚5月27日指田氏他2名、俵辺りでアミを振る。

✚5月27日松井氏、中宮方面へ。シータ、ツマジロウラジャ等を採幼。

✚6月3日農業試験場で虫塚の除幕式。建立記念のテレカは竹谷氏ご自慢のカタクリに憩うギフチョウ。

✚6月3日大杉谷を歩けば虫屋にあたる。野中、田中、井村の各氏は、それぞれ単独で入谷。

✚6月10日松田氏、雲龍山登山口付近でフタバアオイからギフチョウを確認。

✚6月17日白山中宮付近でヒメシジミ採集さる。採集者は京都蝶の会のメンバーではないと言う京都の人。

✚東長江でカブトムシを大々的に養殖している。飼育源はキノコを出し終えた菌床で、毎日2♂1♀のパックを「ふるさと小包」で全国へ発送している。

✚ あわれ、御神木伐倒さる ✚ ネキ、ポエキラ等々、多数集まるブナの枯木、毎年キベリが発生するダケカンバ、と言えば虫屋の御神木。ところがなんと釈迦林道で、2本とも倒されてしまった。

✚上田氏、ここのところ密かに白峰燈火詣を続けている。ついでに暗闇の花すくいもやってるらしい。

✚6月17日松井氏、アサマダの初マーキング。「石ま001」は軽やかに釈迦道を飛んだ。

✚6月21日指田氏、研究室をこっそり抜け出し医王山。フジが2桁採れたらしい。

✚6月23日医王山は早朝から深夜まで虫屋で大にぎわい。フジに始まってカトカラに終わる。

✚6月23日松井氏、中宮へ車を飛ばす。ヒメシジミ狙いは言うまでもなく、しっかり採集。

✚6月24日医王山はまたまた大にぎわい。梅雨の晴れ間とフジの発生期が噛み合ったらしく、3桁は採れているとか。近郷の虫屋がほとんど集った。

✚松井氏、最近なんだか浮かぬ顔。毎晩奥さんに晩酌を進められ、なかなか夜間採集に出られないらしい。

✚田辺氏、片町ラブロ2階 Mr.Bean に展示コーナーを常設。コーヒーでも飲みながら、のんびり眺めてくると良い。

✚嵯峨井氏、土日は決まって医王山。午前と午後の2部に分け、ゼフととことん親しんでいる。

✚吉村(弟)氏、帰省と言えば盆と正月だったが、「セリカGT4」を購入いらい毎週のように帰省している。おかげで岐阜と金沢は近くなった。

✚7月1日松井、中西、野中、井村、指田の5氏とオマケ2人、前夜から夜駆けして、福島県は会津地方へ。早朝5時から採集に励み、2時には帰路についた。

✚7月1日澤田氏、大門山を目指すが土砂崩れで進めず、長トロ峡で花すくい。予想外の戦果で3ポイント獲得したと嬉しげに話していた。

✚ ムラサキシジミ豊産か !? ✚ 1983年からプッツリ記録が途絶えていたムラサキシジミ、最近相次いで2頭も採集された。これはひょっとすると当り年の兆しかも知れない。とすると次は8月下旬が狙い目だ。

✚大杉谷にはイケマが一杯。おまけに大木のウロも多い。行きたくて仕方のないカミキリ屋の井村会長は、あいにく仕事で大忙し。

✚7月23日澤田氏、大杉谷で3ポイントを獲得。県内初のカミキリも含まれている事から、井村会長のジレンマは益々募るばかり。

例会の記録

6月22日(金)8時より城南管工2Fにて開催。4月例会に引き続き、「翔」販売の是非について話し合いを持ったが、非の意見は出ず、販売GOで走ることになった。また、今回は話題に事欠かず、特にS氏の話では大笑いの渦ができていた。

参加は上田、野中、田辺、松田、松井、澤田、中西、近藤、井村、指田、横山(TEL参加)の12人。

目次

松田俊郎：フタバアオイを食べるギフチョウ ……1
松井正人：シータテハの若齢幼虫を観察 ……1
野中　勝：ゼフィルスの野外に於ける孵化期について ……3
野中　勝：アオスジアゲハのゲッケイジュへの産卵例 ……3
澤田　博：富山県福光町ナガトロ峡の蝶について ……4
指田春喜：Pieris 属(ｽｼﾞｸﾞﾛｼﾛ、ｴｿﾞｽｼﾞｸﾞﾛｼﾛ)の発香鱗のおはなし ……5
編集部：財宝捜しレース第1コーナーを回る！ ……7
編集部：会員の動き・しゃばの動き ……10
編集部：例会の記録 ……11

とぶ NO.85

1990年8月3日発行

〒920-01 金沢市大場町東871-15 松井方
百万石蝶談会
☎ 0762－58－2727
振替 金沢5－562

印刷 小西紙店印刷所